

2023年度 通期決算 電話会議 資料

2024年5月20日（月）

MS&AD

INSURANCE GROUP

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

1

本日のポイント（2023年度業績、2024年度業績予想）

- 2023年度正味収入保険料は、3,285億円（+8.4%）増収の4兆2,617億円
- 連結当期純利益は1,582億円増益の3,692億円。グループ修正利益は1,577億円増益の3,799億円

国内損保事業	アード保険料が増加したことに加え、新型コロナ関連ロスの剥落、政策株式の売却加速を含む資産運用益増加などにより増益
国内生保事業	MSA生命の新型コロナ関連給付金の減少により増益。
海外事業	MS Amlinを含む欧州、アジア、米州いずれも増収。MS Amlinの収支改善に加え、他の地域も増益となり、グループ修正利益は過去最高益

※ 2023年度期首より、国際財務報告基準（IFRS）を適用している在外連結子会社及び在外持分法適用会社において、IFRS第17号「保険契約」を適用しており、2022年度に係る数値は当該会計基準を遡及適用した後の数値となっております。

- 2024年度正味収入保険料は、3,382億円（+7.9%）増収の4兆6,000億円
- 連結当期純利益は2,407億円増益の6,100億円、グループ修正利益は2,500億円増益の6,300億円を予想

国内損保事業	保険引受、資産運用のいずれも増加し、前期比2,412億円の増益を見込む。政策株式売却額は6,750億円を織り込む
国内生保事業	グループ修正利益は前期同水準の安定した利益を見込む
海外事業	収益力が安定したAUL・MS Re（ロイズ・再保険事業）を中心に、グループ修正利益は134億円増益の1,530億円を見込む

株主還元	2023年度分：前期比+70円増配・予想比+30円。中間配当120円、期末配当150円500億円（上限）自己株式取得を決定（うち100億円は実施済）、加えて資本水準調整として1,500億円（上限）の自己株式の取得を決定 2024年度分：年間配当予想は145円（株式3分割後）
------	--

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

2

目次

2023年度通期決算の概要

グループ連結	P5-9
国内損害保険会社	P10-13
国内生命保険会社	P14-16
海外保険子会社	P17-19
資料	P20-26

2024年度業績予想

グループ連結	P28-33
国内損害保険会社	P34-35
国内生命保険会社	P36-38
海外保険子会社	P39-42
資料	P43-49

※ 決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」をあわせてご参照ください。

2023年度 通期決算の概要

グループ連結

① トップライン

- 正味収入保険料は、海外保険子会社の大幅増収を主因に3,285億円増収
- 国内損保は、海外保険子会社等からの受再保険の増収もあり、275億円増収の3兆275億円
海外保険子会社は、新規引受の増加や料率引上げ、為替影響により3,007億円増収（除く為替影響は2,090億円増収）

損保子会社

(億円)

	2022年度	2023年度	増収率	
			前期比	増収率
元受正味保険料（除く収入積立保険料）	41,498	44,799	3,301	8.0%
正味収入保険料	39,332	42,617	3,285	8.4%
三井住友海上	16,298	16,233	△ 65	△ 0.4%
あいおいニッセイ同和損保	13,355	13,689	334	2.5%
三井ダイレクト損保	345	352	6	2.0%
海外保険子会社	9,329	12,336	3,007	32.2%

生保子会社

(億円)

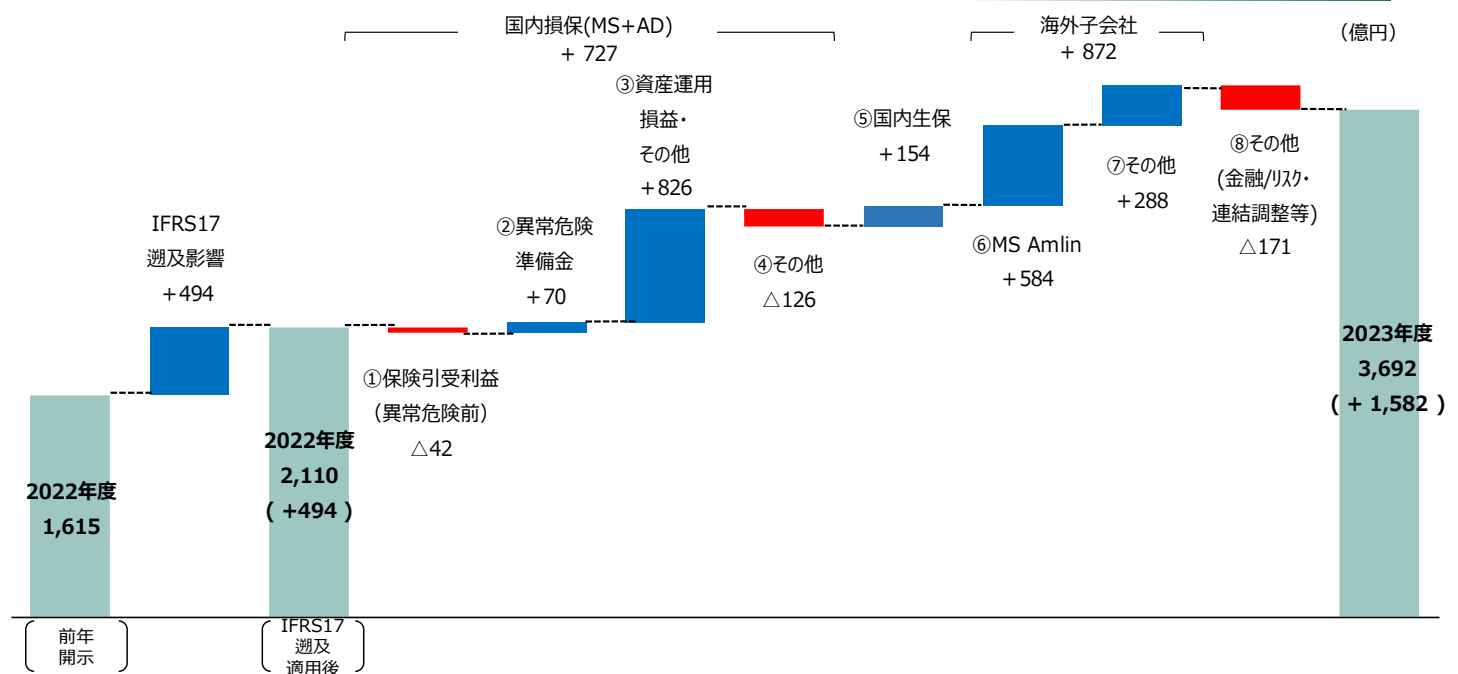
	2022年度	2023年度	増収率	
			前期比	増収率
保険料（グロス収入保険料）※	17,075	18,273	1,198	7.0%
三井住友海上あいおい生命	4,871	4,737	△ 133	△ 2.7%
三井住友海上プライマリー生命	12,204	13,535	1,331	10.9%
生命保険料	4,584	7,352	2,768	60.4%

※ 保険料（グロス収入保険料）は国内生保子会社のみ

②ボトムライン

- 国内損保は、資産運用損益の増加(③)などにより、727億円の増益
- 国内生保(⑤)は、MSA生命が新型コロナによる給付金等の減少等により154億円の増益。MSP生命は前期と同水準
- 海外保険子会社は、保険料増収効果に加え、MS Amlinでの収支改善と自然災害ロスの減少、アジアでの保険サービス損益の好調等により872億円の増益

連結当期純利益の前期比増減要因



③ボトムライン (会社別利益の内訳)

	2022年度	2023年度		2023年度通期予想 ^{※2}		
		前期比	増減率	(11月発表)	進捗率	
経常利益	2,922	4,164	1,241	42.5%	4,000	-
三井住友海上	1,412	2,143	730	51.8%	1,800	-
あいおいニッセイ同和損保	667	790	123	18.4%	820	-
三井ダイレクト損保	△5	△20	△14	-	-	-
三井住友海上あいおい生命	278	491	212	76.2%	443	-
三井住友海上プライマリー生命	310	△269	△579	△186.9%	268	-
海外保険子会社	709	1,570	860	121.3%	-	-
その他・連結調整等	△450	△541	△91	-	-	-
当期純利益 ^{※1}	2,110	3,692	1,582	75.0%	2,800	131.9%
三井住友海上	1,078	1,677	598	55.5%	1,350	124.3%
あいおいニッセイ同和損保	431	560	128	29.8%	560	100.1%
三井ダイレクト損保	8	△15	△24	△272.7%	△19	-
三井住友海上あいおい生命	127	281	154	121.5%	250	112.8%
三井住友海上プライマリー生命	197	196	△0	△0.3%	160	123.1%
海外保険子会社	665	1,538	872	131.0%	1,020	150.8%
その他・連結調整等	△400	△547	△147	-	△521	-
ROE (財務会計ベース)	6.6%	9.8%	3.2pt	-	8.4%	-

※1 連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース (以下同じ)

※2 2024年4月1日に連結業績予想を修正した際は内訳を開示していないため、本資料では2023年11月開示の連結業績予想と比較

④ボトムライン（グループ修正利益の内訳）

(億円)

	2022年度		2023年度		2023年度通期 予想 ^{※4} (11月発表)
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前期比 ^{※1}	
グループ修正利益	1,727	2,222	3,799	1,577	2,800
国内損保事業	1,180	1,183	1,867	683	1,380
国内生保事業	347	347	497	150	450
海外事業	179	670	1,395	724	940
金融サービス事業/デジタル・リスク関連事業	20	20	40	19	30
グループ修正ROE	4.8%	6.1%	9.0%	2.9pt	7.5%

※1 IFRS第17号遡及適用後の前年数値と比較している

(参考)

$$\begin{array}{c} \text{グループ} \\ \text{修正利益} \\ \mathbf{3,799} \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結} \\ \text{当期純利益} \\ \mathbf{3,692} \end{array} + \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入・戻入額}^{\ast 2} \\ \Delta \mathbf{268} \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他} \\ \text{特殊要因}^{\ast 3} \\ \Delta \mathbf{365} \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結} \\ \text{グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ \mathbf{9} \end{array}$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△365

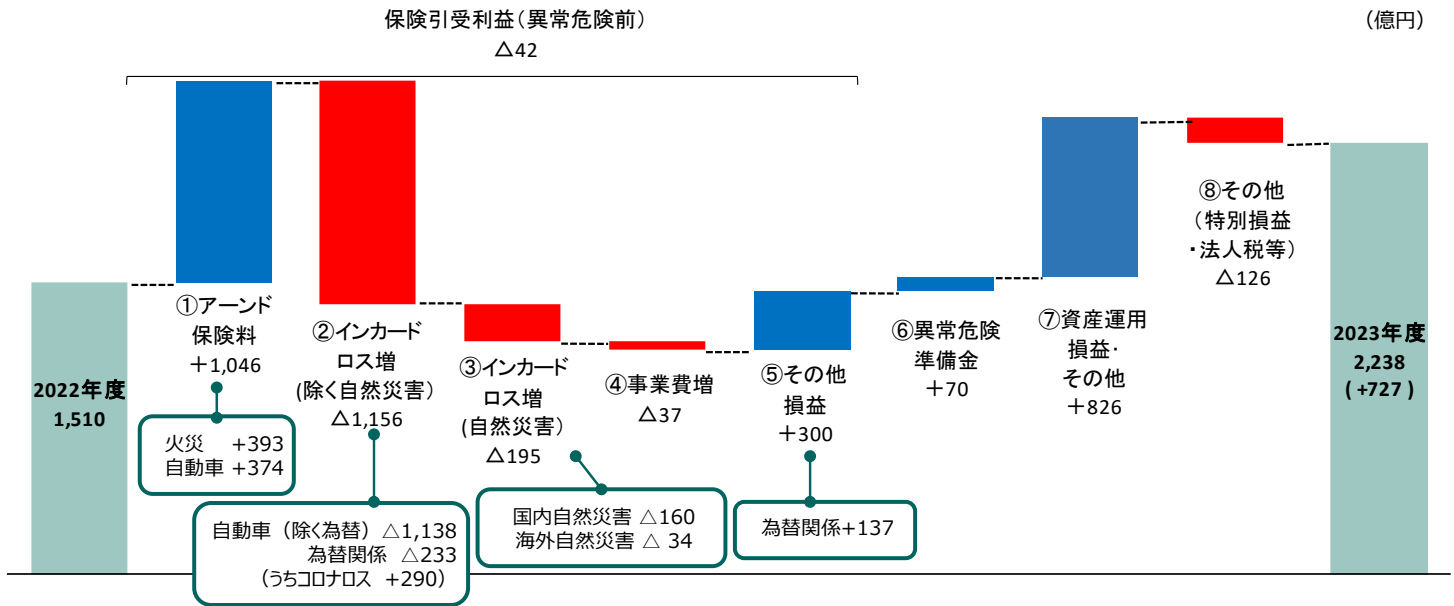
※4 2024年4月1日に連結業績予想を修正した際は内訳を開示していないため、本資料では2023年11月開示の連結業績予想と比較

国内損害保険会社

①ボトムライン (MS+AD)

- 保険引受利益(異常危険前)は、自動車保険、火災保険等のアード保険料 (①) が増加した一方で、自動車保険のロス増 (②) や自然災害ロス増 (③) により減少
- 資産運用損益は、利配収入の増加や有価証券売却益の増加により増加

連結当期純利益(MS+AD)の前期比増減要因

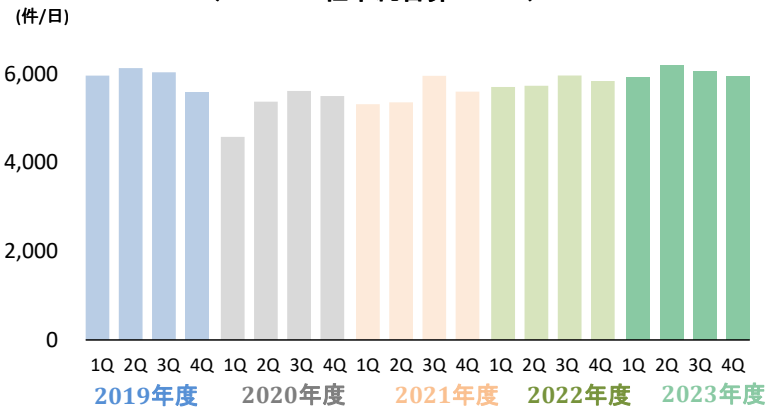


※ ①～⑥の各項目は除く家計地震・自賠償ベース
 ※ ②のインカードロスは含む損害調査費

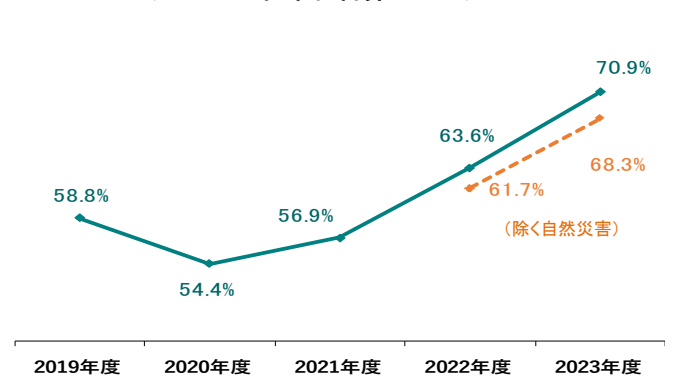
②自動車保険の状況

- 2023年度通期の事故件数は、前期比3.8%の増加
- EI損害率は7.3pt上昇の70.9%

事故件数の推移 (国内, 1日あたり, 除く自然災害) (MS・AD 2社単純合算ベース)



EI 損害率の推移 (含む損害調査費) (MS・AD 2社単純合算ベース)



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因※	+0.1%	+1.5%	+1.7%
<国内>	対物	車両(除く自然災害)	
保険金単価増減	+3.3%	+4.6%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因※	△0.1%	+1.2%	+1.3%
<国内>	対物	車両(除く自然災害)	
保険金単価増減	+4.3%	+6.1%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-3月)の対前年同期比

③自然災害の状況

- 国内自然災害は7月群馬雹災の影響が大きく、自動車で前期比120億円増加、合計で同160億円増加
- 海外自然災害は、13億円の増加

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス			インカードロス 通期予想 ^{※2} (11月発表)	(参考：2023年度)	
	2022年度	2023年度	前期比		出再控除前	
					台風2号	154
三井住友海上	512	613	100	710	7月豪雨	160
あいおいニッセイ同和損保	461	520	59	560	7月群馬雹災	319
合計	974	1,134	160	1,270	台風7号	146
					能登半島地震	173

海外自然災害^{※1}の影響

	インカードロス			インカードロス 通期予想 ^{※2} (11月発表)
	2022年度	2023年度	前期比	
MS Amlin	291	265	△ 25	322
上記以外の子会社	20	11	△ 9	
合計	479	492	13	564

※1 海外自然災害の集計範囲は社内管理ベース

※2 2024年4月1日に連結業績予想を修正した際は内訳を開示していないため、本資料では2023年11月開示の連結業績予想と比較

国内生命保険会社

①三井住友海上あいおい生命

- 新契約年換算保険料のうち第三分野については、引受基準緩和型医療保険や介護・認知症保険の販売開始により5.9%増加
- 当期純利益は、新型コロナによる入院給付金の減少等もあり、前期を154億円上回る281億円となり過去最高益

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2022年度	2023年度	
		前期比	増減率
新契約高（個人合計）	14,566	12,928	△ 1,638 △ 11.2%
新契約年換算保険料	271	269	△ 2 △ 0.8%
うち 第三分野	135	143	8 5.9%
保有契約高（個人合計）	232,499	224,655	△ 7,844 △ 3.4%
保有契約年換算保険料	4,405	4,356	△ 48 △ 1.1%
うち 第三分野	1,575	1,627	51 3.3%
保険料（グロス収入保険料）	4,871	4,737	△ 133 △ 2.7%
経常利益	278	491	212 76.2%
特別損益	△ 13	△ 15	△ 2 -
当期純利益	127	281	154 121.5%
基礎利益※	248	404	156 63.1%
EEV	9,080	9,189	109
参考：EEV(UFR適用した場合)	9,467	9,327	△ 139
純資産価値	△ 38	△ 1,748	△ 1,710
保有契約価値	9,119	10,938	1,819
うち新契約価値	512	466	△ 45

※ 2023年度第1四半期から、基礎利益上における為替に係るヘッジコストの算出方法を変更しております
これに伴い、2022年度も同じ方法により算出した数値で記載しております

②三井住友海上プライマリー生命

- グロス収入保険料は、好調なマーケット環境等を背景に10.9%増収し、過去最高の1兆3,535億円
- 経常利益は、利息及び配当金等収入が増加したものの、外貨建て保険に係る責任準備金繰入負担の増加等により減益
当期純利益は、価格変動準備金を取り崩したことにより、前期並みの196億円

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2022年度	2023年度	
		前期比	増減率
新契約高（個人合計）	12,798	14,370	1,572 12.3%
保有契約高（個人合計）	69,322	79,057	9,735 14.0%
保険料（グロス収入保険料）	12,204	13,535	1,331 10.9%
経常利益	310	△ 269	△ 579 △ 186.9%
特別損益	△ 41	540	582 -
価格変動準備金繰入・戻入	△ 41	540	582 -
当期純利益	197	196	△ 0 △ 0.3%

金利・為替影響

(億円)

	2022年度	2023年度
金利影響	△ 953	△ 952
為替影響	246	△ 29
合計	△ 707	△ 982

海外保険子会社

①業績概要

- 正味収入保険料は、新規引受の増加や料率の引上げ等により欧州、アジア、米州いずれも増収
- 当期純利益は872億円の増益(前年開示金額比では1,380億円の増益)
- アジアはMSIG明台（台湾）およびMS First Capital（シンガポール）の保険サービス損益と資産運用益の増加を中心に140億円の増益。欧州ではMS Amlinの収支改善、自然災害の減少に加え、バミューダ税制改正による132億円の引上げ要因もあり、587億円の増益。海外生保は前期の金融マーケットの変動影響の反動を主因に133億円の増益

海外保険子会社

(億円)

	2022年度			2023年度	
	前年開示金額	IFRS第17号 遡及適用後		前期比 [※]	増減率
正味収入保険料	9,341	9,329	12,336	3,007	32.2%
アジア	2,222	2,214	2,494	280	12.6%
欧州	6,453	6,448	8,824	2,375	36.8%
米州	665	665	1,017	351	52.8%
当期純利益	157	665	1,538	872	131.0%
アジア	285	312	452	140	44.9%
欧州	△ 222	314	901	587	186.6%
米州	31	35	47	11	32.3%
海外生保	62	2	136	133	—

※ IFRS第17号遡及適用後の前年数値と比較している

② (ご参考) MS Amlin (2023年1-12月期)業績概要※1

- 保険サービス損益は、マーケットハード化を捉えたレートアップやMS Reを中心としたトップラインの拡大と、ポートフォリオの改善により、前期を大きく上回る457百万ポンド（前期比+347百万ポンド）
- 金融損益は、投資損益（IFRS4号における資産運用損益）が前期比で大きく改善した一方、保険金融費用（金利変動）において前期の大幅な金利上昇によるプラス影響が剥落したことから、53百万ポンド（前期比△148百万ポンド）
- 当期純利益は、バミューダでの法人税制の改正等による繰延税金資産計上に伴うプラス影響（75百万ポンド）を含め、509百万ポンド（前期比+316百万ポンド）

(百万ポンド)

	2022年度 (IFRS17適用後)	2023年度	
			前期比
保険サービス損益	110	457	347
金融損益	201	53	△148
うち投資損益	△108	273	381
うち保険金融費用（金利変動）（△）	318	△43	△361
うち保険金融費用（利息相当等）（△）	△9	△176	△167
その他損益	△52	△92	△41
法人税等（△）	△67	91	158
当期純利益	193	509	316

【MS Amlinの保険負債に関する補足】
新会計基準では、保険負債は現在価値に割引いて評価される
収支上の影響は以下のとおり

- (1) 当年度引受分の保険負債および過年度引受分の保険負債の変動に係る割引は「保険サービス損益」で認識される
- (2) 過年度引受分の保険負債について、金利変動による割引効果の変動および時間が経過することによる割引額の減少は「保険金融費用」で認識される

【参考】保険サービス損益の主な内訳等※2

正味収入保険料	3,601	4,721	1,120
アード保険料	3,199	4,273	1,074
インカードロス(割引後)	1,947	2,387	441
手数料・社費	1,158	1,435	277
EI 損害率	60.9%	55.9%	△5.0%
EI 事業費率	36.2%	33.6%	△2.6%
EI コンバインド・レシオ	97.1%	89.5%	△7.6%

大口自然災害ロス (割引前) (百万ポンド)

2022年度	2023年度	
		前期比
180	151	△29

※1 現地管理ベース（当期から主要現法の単純合算値としている）。なお、過年度保険負債移転に係る出再保険料等は保険勘定から除く

※2 正味収入保険料はIFRS4ベース。アード保険料以下は保険サービス損益の内訳を従来の表示区分に組み替えている。ただし、インカードロスが割引後であるなど、取扱いはIFRS17ベース。EIコンバインド・レシオは損失要素の変動を含まない

国内損害保険 主要2社 業績概要①

(億円)

	2社合計 (単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)	
		前期比		前期比		前期比
正味収入保険料^{※1}	29,922	269	16,233	△ 65	13,689	334
アーンド保険料 ^{※2, ※3}	27,484	1,046	15,158	460	12,325	586
インカードロス (含む損害調査費) ^{※2}	(-)	1,351	10,253	394	9,009	957
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	37	4,916	△ 10	4,201	48
諸手数料及び集金費 ^{※2}	5,723	16	2,938	△ 64	2,785	81
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,394	21	1,978	54	1,416	△ 32
保険引受利益 (異常危険準備金反映前)	△ 584	△ 42	47	239	△ 631	△ 282
異常危険準備金損益	459	70	159	126	299	△ 56
保険引受利益	△ 124	27	207	366	△ 331	△ 338
EI損害率^{※2}	70.1%	2.4pt	67.6%	0.5pt	73.1%	4.5pt
正味損害率 ^{※1}	66.0%	0.7pt	65.6%	1.3pt	66.4%	△ 0.2pt
正味事業費率 ^{※1}	33.3%	△ 0.1pt	32.7%	0.2pt	34.2%	△ 0.4pt
コンバインド・レシオ^{※1}	99.3%	0.6pt	98.3%	1.5pt	100.6%	△ 0.6pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠償ベース

※3 アーンド (既経過) 保険料は、未経過保険料 (除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険 主要2社 業績概要②

(億円)

	2社合計 (単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)	
		前期比		前期比		前期比
保険引受利益	△ 124	27	207	366	△ 331	△ 338
ネット利息及び配当金収入	1,882	291	1,294	199	588	91
有価証券売却損益	1,816	511	989	75	827	436
有価証券評価損 (-)	253	△ 30	245	△ 15	7	△ 15
資産運用・その他収支	3,058	826	1,936	364	1,122	461
経常利益	2,933	854	2,143	730	790	123
特別損益	0	107	69	67	△ 69	39
税引前当期純利益	2,933	961	2,212	798	721	162
法人税等	695	233	534	199	160	34
当期純利益	2,238	727	1,677	598	560	128
(参考) 政策株式削減額	2,442	376				

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
	2022年度	2023年度	増収率	2023年度	増収率	2023年度	増収率
火災	4,907	4,579	△6.7%	2,505	△5.8%	2,073	△7.7%
海上	839	786	△6.3%	734	△3.4%	51	△34.4%
傷害	2,124	2,193	3.2%	1,586	4.5%	607	0.2%
自動車	14,537	15,106	3.9%	6,983	1.4%	8,122	6.1%
自賠責	2,754	2,552	△7.3%	1,302	△8.3%	1,249	△6.2%
その他	4,491	4,704	4.7%	3,119	2.2%	1,584	10.1%
合計	29,653	29,922	0.9%	16,233	△0.4%	13,689	2.5%
除く家計地震・自賠責	26,898	27,368	1.7%	14,929	0.4%	12,439	3.5%

国内損害保険 主要2社 種目別EI損害率(①2社合算ベース)

EI損害率(2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2022年度	2023年度	前期比	2022年度	2023年度	前期比
火災 (除く家計地震)	80.3%	76.2%	△4.1pt	62.3%	59.0%	△3.3pt
海上	60.2%	58.7%	△1.5pt	60.1%	58.6%	△1.5pt
傷害	63.1%	58.1%	△5.0pt	63.1%	58.1%	△5.0pt
自動車	63.6%	70.9%	7.3pt	61.7%	68.3%	6.6pt
その他	71.5%	68.4%	△3.1pt	70.7%	66.6%	△4.1pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	67.7%	70.1%	2.4pt	63.4%	65.2%	1.8pt

※ インカドロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

EI損害率（三井住友海上（単体）、あいおいニッセイ同和損保（単体））

	EI損害率				EI損害率（除く自然災害影響）			
	三井住友海上（単体）		あいおいニッセイ同和損保（単体）		三井住友海上（単体）		あいおいニッセイ同和損保（単体）	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災 （除く家計地震）	72.7%	△3.9pt	80.5%	△4.2pt	60.4%	△1.6pt	57.1%	△5.7pt
海上	55.5%	△3.3pt	94.3%	18.5pt	55.3%	△3.3pt	94.3%	18.5pt
傷害	58.6%	△5.1pt	56.7%	△5.0pt	58.6%	△5.1pt	56.7%	△5.0pt
自動車	70.0%	6.8pt	71.7%	7.7pt	67.0%	5.6pt	69.4%	7.4pt
その他	65.3%	△6.3pt	74.7%	3.3pt	63.3%	△7.4pt	73.5%	3.0pt
合計 （除く家計地震・自賠責）	67.6%	0.5pt	73.1%	4.5pt	63.6%	0.1pt	67.1%	3.9pt

※ インカドロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

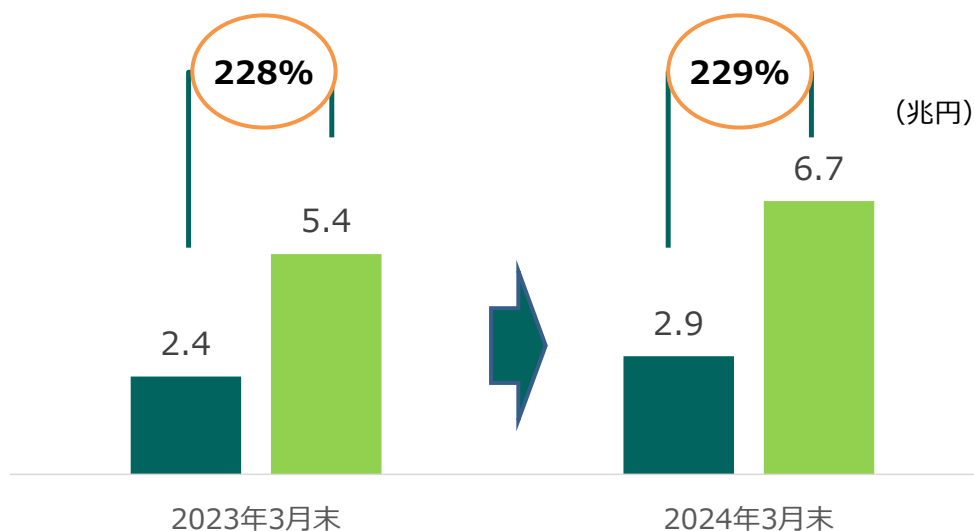
※ E I 損害率の分母となるアード（既経過）保険料は、未経過保険料（除く自然災害責任準備金）・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

（ご参考）ESRの状況

ESR（注1）

■ 統合リスク量^(注2) ■ 時価純資産



＜ESRの主な変動要因＞
（2023年3月末対比）

ESRは2023年3月末から+1pt上昇

- 上昇要素
 - ・政策株式の売却によるリスク量の減少
 - ・市場環境の変動（国内株価・金利の上昇、円安）による時価純資産の増加
- 低下要素
 - ・収益期待資産への投資拡大等によるリスク量の増加

＜市場環境＞

	2023年 3月末	2024年 3月末	対2023年 3月末比
日経平均株価	28,041円	40,369円	+12,328円
国債30年金利	1.26%	1.82%	+0.56pt
為替（ドル円）	134円	151円	+17円

（注1） ESR：エコノミック・ソルベンシー・レシオ（＝時価純資産÷統合リスク量）

（注2） 統合リスク量：信頼水準99.5%のVaR（Value at Risk）でリスク量を計測

2024年度業績予想

グループ連結

①トップライン

- 損保子会社の正味収入保険料は、自動車保険や火災保険の増収により、3,382億円の増収
海外保険子会社はAUL、MS Reの引受拡大や料率引上げを主因に2,523億円の増収
- 生保子会社のグロス収入保険料は△1,563億円の減収

損保子会社

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
		前期比	増収率
正味収入保険料	42,617	46,000	3,382 7.9%
三井住友海上	16,233	16,640	406 2.5%
あいおいニッセイ同和損保	13,689	14,150	460 3.4%
三井ダイレクト損保	352	370	17 5.1%
海外保険子会社	12,336	14,860	2,523 20.5%

生保子会社

(億円)

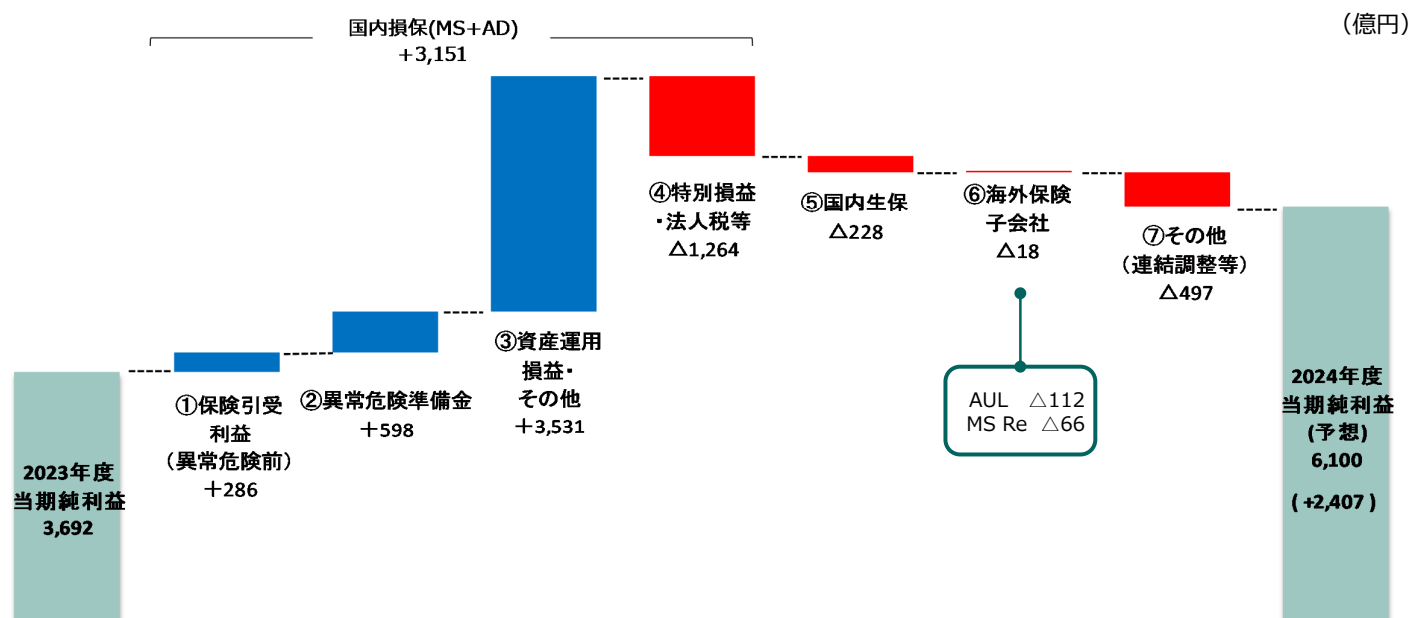
	2023年度	2024年度(予想)	
		前期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)※	18,273	16,710	△1,563 △8.6%
三井住友海上あいおい生命	4,737	4,660	△77 △1.6%
三井住友海上プライマリー生命	13,535	12,050	△1,485 △11.0%
生命保険料	7,352	8,310	957 13.0%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

②ボトムライン(前期比増減要因)

- 国内損保は、保険引受利益(①)の増加、政策株式売却加速による資産運用損益・その他(③)の大幅増加により3,151億円の増益
- 国内生保は、MSA生命で債券の入替を進めることにより△228億円の減益。債券入替の影響を除くと前期同水準
- 海外保険子会社は、米州、海外生保が増益の一方で、AULは前期に自然災害ロスが少なかった反動、MS Reはバミューダ税制改正に伴う繰延税金資産計上の反動などがあり、△18億円の減益

連結当期純利益の前期比増減要因



③ボトムライン

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
			前期比
経常利益	4,164	8,710	4,545
三井住友海上	2,143	6,060	3,916
あいおいニッセイ同和損保	790	1,290	499
当期純利益 [※]	3,692	6,100	2,407
三井住友海上	1,677	4,530	2,852
あいおいニッセイ同和損保	560	860	299
三井ダイレクト損保	△ 15	△ 12	3
三井住友海上あいおい生命	281	50	△ 232
三井住友海上プライマリー生命	196	200	3
海外保険子会社	1,538	1,520	△ 18
その他・連結調整等	△ 547	△ 1,048	△ 501
ROE(財務会計ベース)	9.8%	13.8%	4.0pt

※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ

④ボトムライン (グループ修正利益)

- グループ修正利益は国内損保事業の政策株式売却加速による売却益増加等により2,500億円増益の6,300億円
- MS、AD、MSA生命において債券の入替を実施し、グループ計で500億円程度(税後)の売却損を計上
当該金額は特殊要因としてグループ修正利益からは控除

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
			前期比
グループ修正利益	3,799	6,300	2,500
国内損保事業	1,867	4,280	2,412
国内生保事業	497	480	△ 17
海外事業	1,395	1,530	134
金融サービス事業/デジタル・リスク関連事業	40	10	△ 30
その他経営数値目標			
MSA生命 EEV	9,189	9,700	511
グループ修正ROE	9.0%	13.0%	4.0pt

今回業績予想の主な前提

	三井住友海上	あいおいニッセイ同和損保
市場環境の前提	2024年3月末の水準を想定 (政策株式の売却に関しては、2024年4月末の株式相場) 参考 (2024年3月末) 日経平均 40,369円、米ドル 151円、ユーロ 163円、英ポンド 191円 参考 (2024年4月末) 日経平均 38,405円	
国内自然災害	875億円 (+ 261億円)	710億円 (+ 189億円)
海外自然災害 ^{※1}	-	140億円 (△ 75億円)
政策株式売却額(2社合算)	6,750億円 (+ 4,307億円)	
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	401億円 (+ 21億円)
	取崩	715億円 (+ 242億円)
	積増	△ 313億円 (△ 220億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	230億円 (+ 6億円)
	取崩	576億円 (+ 117億円)
	積増	△ 346億円 (△ 110億円)
法定実効税率	27.9%	

※1 AUL、MS Re計は530億円 (+264億円)

※2 () 内は前期比

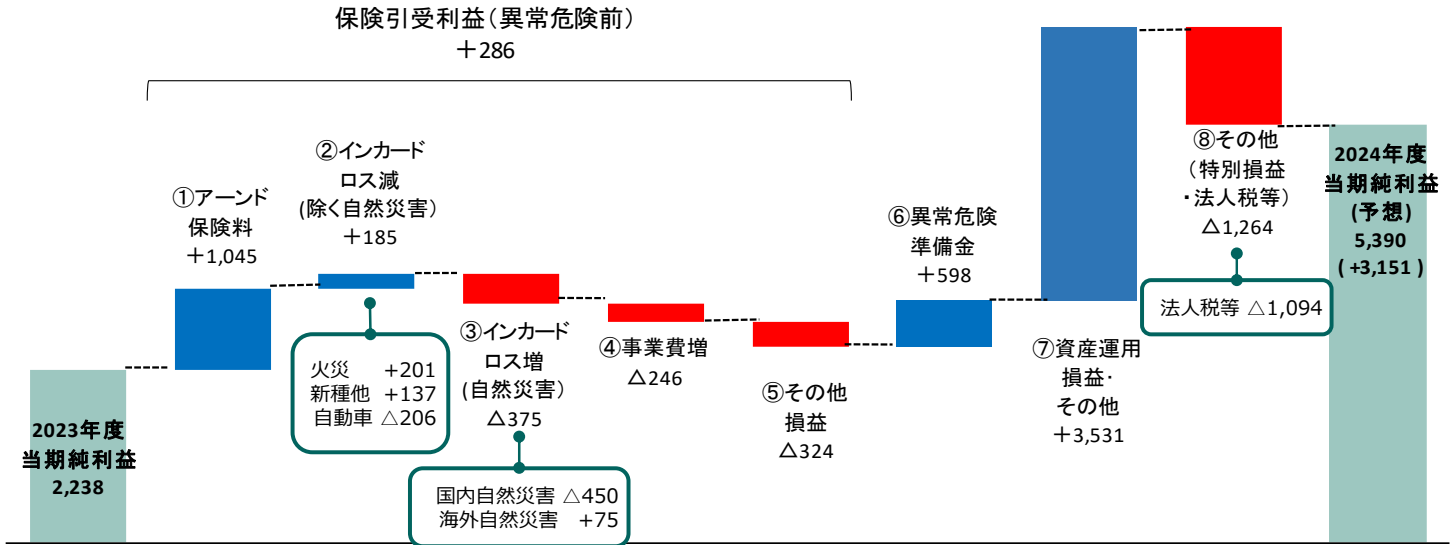
国内損害保険会社

①ボトムライン (MS+AD)

- 保険引受利益(異常危険前)は、自動車保険のロス増(②)、国内自然災害の増加(4月の兵庫県ひょう災影響)(③)があるものの、自動車保険の2024年1月の料率引上げ効果の取込み、火災保険の料率引上げ効果取込み等によるアーンド保険料(①)増加を主因に増益
- 資産運用損益(⑦)は、政策株式の売却加速による有価証券売却益の増加により大きく増加

連結当期純利益(MS+AD)の前期比増減要因

(億円)



※ ①～⑥の各項目は除く家計地震・自賠償ベース
 ※ ②のインカードロスは含む損害調査費

国内生命保険会社

①三井住友海上あいおい生命

- 2024年度予想は債券の入替による売却損を織り込み、当期純利益は50億円

主要項目

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
			増減率/前期比
新契約高 [※]	12,928	13,837	7.0%
新契約年換算保険料 [※]	269	278	3.3%
保有契約高 [※]	224,655	219,692	△2.2%
保有契約年換算保険料 [※]	4,356	4,335	△0.5%
保険料(グロス収入保険料)	4,737	4,660	△77
経常利益	491	169	△322
当期純利益	281	50	△232

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

②三井住友海上プライマリー生命

- 2024年度予想は前期同水準を見込む

主要項目

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
			増減率/前期比
新契約高	14,370	13,594	△5.4%
保有契約高	79,057	82,864	4.8%
保険料(グロス収入保険料)	13,535	12,050	△1,485
経常利益	△269	422	692
当期純利益	196	200	3

海外保険子会社

①2024年度業績予想

海外保険子会社

(億円)

	2023年度	2024年度(予想)	
			前期比
正味収入保険料	12,336	14,860	2,523
AUL(ロイズ事業)	2,356	2,957	600
MS Re(再保険事業)	4,067	4,955	887
欧州(AULおよびMS Reを除く)	2,400	2,655	253
米州	1,017	1,514	496
アジア	2,494	2,779	284
当期純利益	1,538	1,520	△ 18
AUL(ロイズ事業)	346	234	△ 112
MS Re(再保険事業)	519	453	△ 66
欧州(AULおよびMS Reを除く)	36	48	12
米州	47	172	124
アジア	452	400	△ 52
海外生保	136	213	76

② (ご参考) AUL (2024年1-12月期)業績予想※1

- 当期純利益は122百万ポンド（前期比△74百万ポンド）を見込む
- 保険サービス損益は、引き続きレートアップ等によりトップラインの増収を見込むが、前期は自然災害ロスが少なかったことの反動等により、前期を下回る156百万ポンド（前期比△88百万ポンド）を見込む

	2023年度	2024年度（予想）	
			前期比
保険サービス損益	244	156	△88
金融損益	△15	20	35
うち投資損益	56	63	6
うち保険金融費用（△）	△71	△ 43	28
その他損益	△63	△ 12	51
法人税等（△）	31	△ 41	△72
当期純利益	197	122	△74

【参考】保険サービス損益の主な内訳等※2

正味収入保険料	1,495	1,546	51
アード保険料	1,351	1,560	210
インカードロス(割引後)	624	875	251
手数料・社費	488	533	46
EI 損害率	46.2%	56.1%	9.9%
EI 事業費率	36.1%	34.2%	△1.9%
EI コンバインド・レシオ	82.3%	90.3%	8.0%

※1 現地管理ベース。

※2 正味収入保険料はIFRS4ベース。アード保険料以下は保険サービス損益の内訳を従来の表示区分に組み替えている。ただし、インカードロスが割引後であるなど、取扱いはIFRS17ベース。EIコンバインド・レシオは損失要素の変動を含まない

③ (ご参考) MS Re (2024年1-12月期)業績予想※1

- 当期純利益は301百万ドル（前期比△66百万ドル）を見込む。前期の繰延税金資産計上に伴う一過性のプラス影響を除くと、増益を見込む
- 保険サービス損益は、優良顧客との取引を中心とした、ポートフォリオ拡大・多種目化取組ならびに収益性の向上により、303百万ドル（前期比+66百万ドル）を見込む

	2023年度	2024年度（予想）	
			前期比
保険サービス損益	237	303	66
金融損益	63	30	△33
うち投資損益	199	172	△27
うち保険金融費用（△）	△137	△ 142	△5
その他損益	△27	△ 16	11
法人税等（△）	94	△ 16	△110
当期純利益	366	301	△66

【参考】保険サービス損益の主な内訳等※2

正味収入保険料	2,868	3,291	423
アード保険料	2,496	2,812	316
インカードロス(割引後)	1,484	1,631	147
手数料・社費	777	878	101
EI 損害率	59.5%	58.0%	△1.5%
EI 事業費率	31.1%	31.2%	0.1%
EI コンバインド・レシオ	90.6%	89.2%	△1.4%

※1 現地管理ベース。

※2 正味収入保険料はIFRS4ベース。アード保険料以下は保険サービス損益の内訳を従来の表示区分に組み替えている。ただし、インカードロスが割引後であるなど、取扱いはIFRS17ベース。EIコンバインド・レシオは損失要素の変動を含まない

国内損害保険 主要2社 業績予想①

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料^{※1}	30,790	867	16,640	406	14,150	460
アーンド保険料 ^{※2、※3}	28,530	1,045	15,549	390	12,981	655
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2} (－)	19,451	188	10,451	198	9,000	△ 9
保険引受に係る事業費 ^{※2} (－)	9,364	246	4,977	60	4,387	185
諸手数料及び集金費 ^{※2}	5,864	140	2,986	48	2,878	92
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,500	105	1,991	12	1,509	92
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 298	286	115	68	△ 413	218
異常危険準備金損益	1,058	598	475	314	583	283
保険引受利益	760	884	590	382	170	501
EI損害率^{※2}	68.2%	△ 1.9pt	67.2%	△ 0.4pt	69.3%	△ 3.8pt
正味損害率 ^{※1}	69.4%	3.4pt	68.2%	2.6pt	70.8%	4.4pt
正味事業費率 ^{※1}	33.2%	△ 0.1pt	32.2%	△ 0.5pt	34.4%	0.2pt
コンバインド・レシオ^{※1}	102.6%	3.3pt	100.4%	2.1pt	105.2%	4.6pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
保険引受利益	760	884	590	382	170	501
ネット利息及び配当金収入	2,118	235	1,505	210	613	24
有価証券売却損益	5,173	3,356	4,285	3,296	888	60
有価証券評価損 (一)	72	△ 181	30	△ 215	42	34
資産運用・その他収支	6,590	3,531	5,470	3,533	1,120	△ 2
経常利益	7,350	4,416	6,060	3,916	1,290	499
特別損益	△ 170	△ 169	△ 48	△ 117	△ 122	△ 52
当期純利益	5,390	3,151	4,530	2,852	860	299

国内損害保険 主要2社 種目別正味収入保険料

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	5,030	9.8%	2,651	5.8%	2,379	14.7%
海上	775	△1.4%	734	△0.1%	41	△20.4%
傷害	2,252	2.7%	1,639	3.3%	613	0.9%
自動車	15,367	1.7%	7,176	2.8%	8,191	0.8%
自賠責	2,415	△5.4%	1,220	△6.4%	1,195	△4.4%
その他	4,951	5.2%	3,220	3.2%	1,731	9.2%
合計	30,790	2.9%	16,640	2.5%	14,150	3.4%
除く家計地震・自賠責	28,371	3.7%	15,417	3.3%	12,954	4.1%

EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	73.8%	△2.4pt	73.1%	0.4pt	74.5%	△6.0pt
海上	55.3%	△3.4pt	54.6%	△0.9pt	66.7%	△27.6pt
傷害	57.1%	△1.0pt	56.7%	△1.9pt	58.0%	1.3pt
自動車	70.7%	△0.2pt	71.0%	1.0pt	70.5%	△1.2pt
その他	61.2%	△7.2pt	61.6%	△3.7pt	60.3%	△14.4pt
合計(除く家計地震・自賠責)	68.2%	△1.9pt	67.2%	△0.4pt	69.3%	△3.8pt
(除く自然災害影響)	62.1%	△3.1pt	61.6%	△2.0pt	62.8%	△4.3pt

※ インカドロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ E I 損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの金額

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります

- ・ MS & ADホールディングス、持株会社 (= MS & ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS & AD (= MS & ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (= 三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (= あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (= 三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (= 三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (= 三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (= AUL、MS Re、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

- AUL (= MS Amlin Underwriting Limited)
- MS Re (= MS Reinsurance※)
- AISE (= MS Amlin Insurance SE)
- ACS (= MS Amlin Corporate Services Limited)

※MS Amlin AGが2022年9月より使用開始したブランドネーム

- ・ MSIG 明台 (= MSIG Mingtai Insurance Co.,Ltd)

「グループ修正利益、修正純資産、グループ修正ROE」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等） + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>